様式２

学校名（　川西市立川西北小学校　）

実施日：　年間	
領　域：①教科 国語[漢字学習]算数[計算学習]	
取組名：いちごタイム（国語）　たけのこタイム（算数）	
対　象：全学年	実施場所：各教室
ア　ねらい どの子もが、やればできる。学習は、難しいものではなく、取り組めばできるという達成感を持ち、一人ひとりの学習意欲や自尊感情が高まるようにする。基礎学力の定着を図る。	
イ　指導内容（指導略案）や取組の概要 ・いちごタイム（漢字学習） 朝学習１５分間。漢字学習の反復練習や小テストを実施する。 漢字ドリルや漢字練習帳の活用。 ・たけのこタイム（計算学習） 昼学習１０分間。算数計算領域の反復練習や小テストを実施する。 計算ドリルや算数教科書、百ますプリント等の小プリント活用。	
ウ　連携先：全職員	
エ　連携にむけての取組 ・　学年共通の学習課題を設定して、使用するプリントやドリル、小テスト等の共通化を進める。 ・　各学年のカリキュラム構成や習熟度に合わせた課題設定などは、全教員で研修しながら進める。	
オ　組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・　学年会を中心に、毎月の学習課題の設定や取り組み進度の調整を行い、プリントや小テストの作成を随時行う。 ・　毎月実施する校内研修担当者会において、学年相互の取り組みの交流や学習課題の習熟状況を交流して、特に定着が難しい漢字や計算領域の指導法について検討する。 ・　校内研修の教科研究を算数科で実施しており、授業研究会等で、児童の基礎学力の定着にも着目し、たけのこタイムでの効果実証を図る。	
カ　評価の方法 ・　漢字学習、計算学習ともに小テストや大テストを実施して、学習内容の定着を図るとともに、担任より児童一人ひとりの伸びやがんばりを赤ペンを入れて評価する。 ・　児童一人ひとりが、学習記録をファイルして、学期末にそれぞれ自分の学習を振り返り、感想を書き、あわせて次も自己目標も設定する。	
キ　成果 低学年や中学年においては、学期ごとの学習の目標に漢字学習や計算学習を上げる児童が多くなり、自分の課題として漢字や計算に意欲的に取り組もうという姿勢が育っている。高学年においては、既習内容の定着に差があり、同一課題での学習では十分に達成感が得られず、あまり意欲的な取り組みには結びつかない。しかし、毎日の取り組みであり、決められた時間に決められた学習を行うという習慣は、学習への集中力を向上させ、落ち着いて学習に取り組み姿勢を育むことができている。	
ク　課題 ・　基礎学力の定着と学習意欲の高まりにおいては、朝学習・昼学習のメリハリのある学習は効果的であったが、学習成果が自尊感情の育成につながったとは言い難く、高学年においては習熟度別の学習課題の設定が難しく、どの子へも同じように達成感の充実は図れなかった。 ・　文章を書く、文章を読む、文章題を解くなどの基礎・基本の学習以外の取り組みで、達成感や学習意欲の向上、自尊感情の高まりへとつなげる取り組みが今後必要と考える。	